

創業40周年を節目にロゴマークとスローガンを刷新

－SRAグループ全社員の意志と力を結集しさらなる発展と事業拡大をめざします－



「**変化**」から「**進化**」へ ～我々は真のプロフェッショナルをめざします～

SRAグループは、株主のみなさまに
継続的な企業価値の向上を実感していただくために継続的な
「変化」すなわち「進化」していくことをお約束いたします。
新しい技術、喜ばれるソリューションを提供し続ける真のプロフェッショナル集団へ。
SRAグループはさらなる「進化」をとげていきます。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（同送付先）	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711（フリーダイヤル）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により、当社ホームページ（ http://www.sra-hd.co.jp/e-koukoku/ ）に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。
また、株券を喪失された場合の手続は「株券失効制度」により簡便となりました。詳細については株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-232-711で平日9時から17時までにご照会ください。
- 振込口座をご指定されておられない株主さまには従来、「郵便振替支払通知書」にて配当金をお受取りいただいておりますが、2007年10月1日に日本郵政公社が民営化されたことに伴い、「郵便振替支払通知書」に代わって「配当金領収証」にて配当金をお受取りいただくこととなりました。（従前のとおり、もよりのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口にて配当金をお受取り頂くことができます。）

2008年3月期 中間報告書

2007年4月1日～2007年9月30日



株式会社SRAホールディングス

証券コード:3817



「変化」から「進化」へ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
2008年3月期中間期の業績についてご報告させていただきます。

2008年3月期中間連結実績

	2008年3月期中間期	前年同期比
売上高	197億86百万円	+31億12百万円 18.7%UP
経常利益	17億31百万円	+5億94百万円 52.3%UP
中間純利益	9億18百万円	△2億91百万円 24.1%DOWN

当中間期は前年同期と比較し大幅な増収増益となりました。

売上高増加理由

- ・中核事業会社SRAのシステム開発受注、主要子会社AITの機器販売が好調に推移
- ・日系グローバル企業等をお客さまとするSRAアメリカ、SRAヨーロッパ、SRAOSSのシステム開発等が好調

損益増加理由

- ・売上増に伴う粗利益の増加、粗利益率の向上、生産性の向上および販管費抑制の継続等
(前年同期には、技術センター売却益9億86百万円がありました。)

2008年3月期連結見込

	2008年3月期見込	前年同期比
売上高	415億00百万円	+47億35百万円 12.9%UP
経常利益	38億50百万円	+9億27百万円 31.7%UP
当期純利益	20億60百万円	+45百万円 2.2%UP

引き続き、グループシナジーの構築・強化に努め、事業環境の良さを積極的に取り込むべく、事業拡大に注力します。また、オフショア開発を進めることで利益率を確保するとともに、「ソフトウェア工学」に基づいた受注・生産手法として、受注から生産・検収に至るシステム開発のサイクル管理の徹底を行い、「標準プロセス化」を推進し、不

採算プロジェクトの発生の防止を図ります。

中期経営計画(2006年3月期～2008年3月期)の最終年度ですが、計画の目標である売上高400億円、経常利益32億円(2007年度の経営計画では経常利益34億円としています。)を大幅に上回る見込みです。

当期の配当は、連結配当性向20%を目処としていることから、期末配当金につきましては、1株当たり普通配当25円を5円増配し、1株当たり普通配当金を30円とする予定です。またすでに、今年度より株主優待制度を導入しております。

純粋持株会社体制とし、SRAホールディングスを始動して1年が経ちました。本年度はSRAグループ40周年にもあたります。現在、新たに2008年4月から始まる新中期経営計画を策定中であります。引き続き業績向上と「進化」に向けて、ご期待に応えるべく努力してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2007年12月

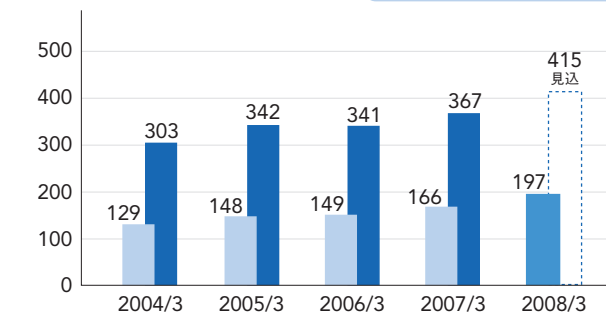
代表取締役社長

鹿島 亨



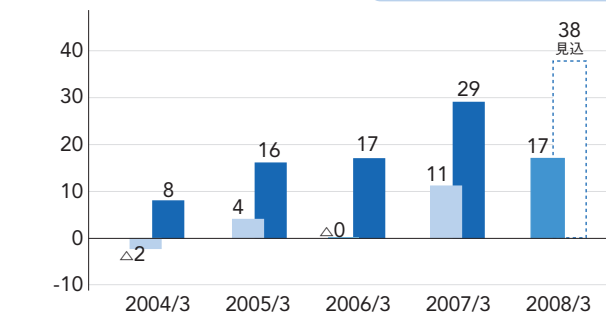
売上高 (単位: 億円)

■ 中間期 ■ 通期 〰 通期(見込)



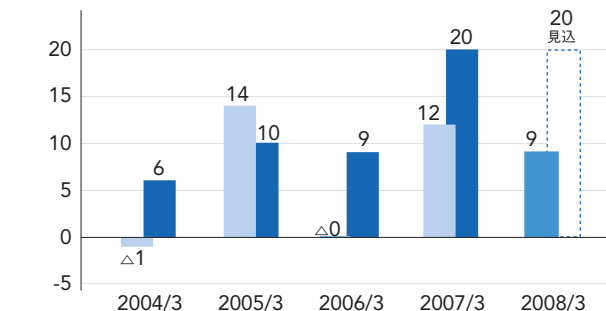
経常利益 (単位: 億円)

■ 中間期 ■ 通期 〰 通期(見込)



当期(中間)純利益 (単位: 億円)

■ 中間期 ■ 通期 〰 通期(見込)



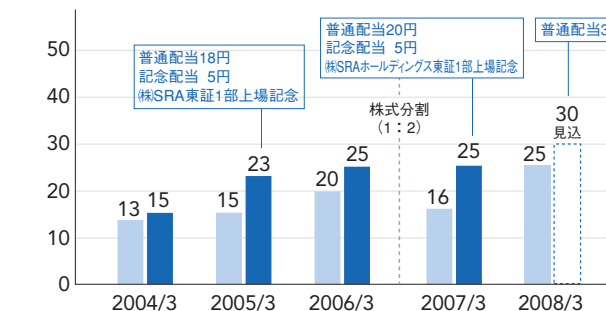
中間期に技術センター売却益9億円を計上しています

(注)1. 2008年3月期予想は、2007年10月に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益および配当は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

(注)2. 2007年3月期以前は株式会社SRAの連結実績。

1株当たり配当金 (単位: 円)

■ 当初予定配当 ■ 年間配当 〰 年間配当(見込)



※一過性の要因である技術センター売却益を除いて算出。

株主優待制度のご案内

- 優待内容** 株主のみなさまの日頃からのご支援に対し感謝の気持ちを込めまして、年1回、「おこめギフト券」を株主優待として贈呈いたします。
贈呈の基準 株式保有数 **100株以上→3枚**
- 対象株主** 毎年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主の方を対象といたします。
- 贈呈期間** 毎年12月中旬頃に発送を予定しております。

実施開始時期

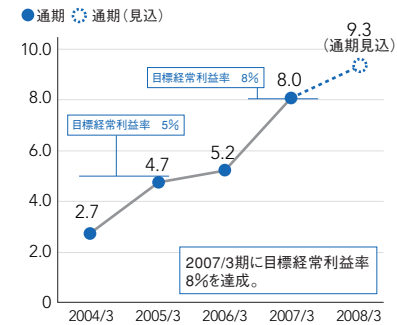
2007年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主の方より実施いたします。

株主優待制度の情報は右記ホームページでもご覧になれます。 <http://www.sra-hd.co.jp/ir/investor/>

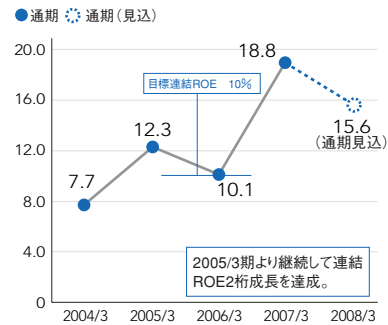


■2008年3月期予想指標

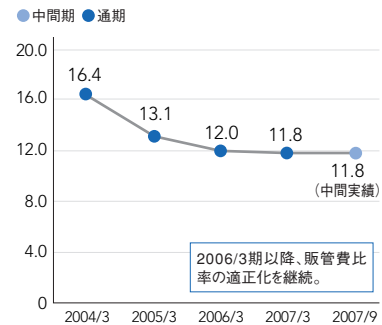
連結売上高経常利益率（単位：％）



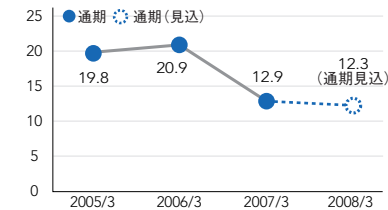
連結自己資本当期純利益率(ROE)（単位：％）



連結販管費比率（単位：％）

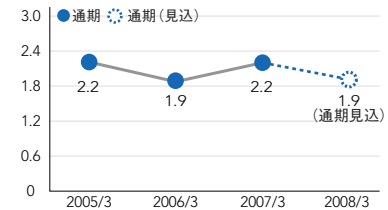


PER（株価収益率）（単位：倍）



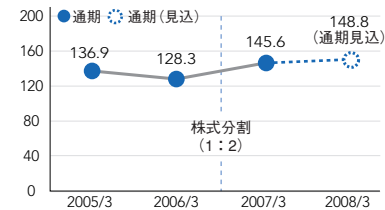
PER＝各中間期末当社東証終値÷1株当たり当期純利益

PBR（株価純資産倍率）（単位：倍）



PBR＝各中間期末当社東証終値÷1株当たり期末純資産

EPS（1株当たり当期純利益）（単位：円）

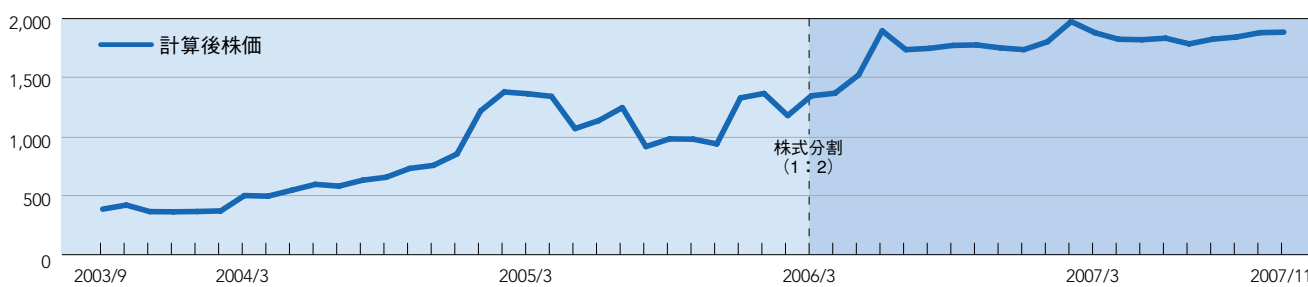


EPS＝中間純利益÷発行済株式数（期中期末平均）

※2008/3期のPER、PBR、EPSの算出に係る株価は2007/9期の末日の終値を使用し、収益等は2008/3期の予想値を使用しております。

※2007年3月期以前は株式会社SRAの連結実績。

株価チャート（単位：円）



株式会社SRA ◀ ▶ 株式会社SRAホールディングス

どこのメーカー／ユーザーにも属さないから・・・ お客さまにとって最適な選択肢を提供できる！

■SRAグループのソフトウェア業界における位置づけ



独立系であり続ける上での大きなメリットは、資本に支配されずに顧客本位のサービス、ソリューションが提供できる点です。ハードウェアでもソフトウェアでも、特定のベンダーやメーカーに偏ることなく、中立な立場で真に最適な選択肢を提供することが、お客さまにとって最大のメリットとなります。そして、それこそが、私たちSRAグループの存在価値であると考えています。

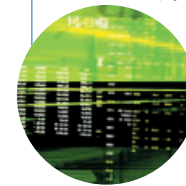
■SRAグループの技術 みなさまの身近なところにもSRAグループの様々な先端技術が活用されています。

証券会社

これもコンピュータ！
動かしているのは、
SRAグループの技術です。

株式をインターネットで売買する時代。

高い信頼性が求められる証券会社のオンライン・トレードシステム。大手証券会社のシステムにも、SRAグループの技術力とノウハウが活かされています。



電機メーカー

ここにもコンピュータ！
動かしているのは、
SRAグループの技術です。

高機能の新製品が次々と発売される家電分野。

ビデオカメラ、テレビ、DVDプレーヤー、ゲーム機器・・・それらのシステムの中核部分にもSRAグループの先端技術力が活かされています。



銀行

正確性・安定性・高いセキュリティ
動かしているのは、
SRAグループの技術です。

正確性、安定性、高いセキュリティが求められる銀行のATM。

大手都市銀行のATMシステムにもSRAグループの高い技術力と金融分野の豊富な業務ノウハウが活かされています。



SRAグループは3つの強みを活かして 中期経営計画の達成をめざしてまいります



1. 技術優位性

「ソフトウェア価値の確立」をめざした独立系ソフトハウスとして設立以来、一貫して「技術のSRA」を指向し、特にオープンソースソフトウェアの分野において技術優位性を確保している強みがあります。SRAグループの技術先進性を活かして、新ビジネスの創出、新規事業の立ち上げに取り組んでまいります。

- 戦略に基づく先進技術のビジネスモデル化: SOAとその関連技術、セキュリティ技術
- 先進技術を活かした品質向上/生産性向上: Ajax、各種フレームワーク、オフショア生産技術

2. Global Reach (グローバルリーチ)

業界に先駆けて海外拠点を設置し、グローバルな事業展開に取り組んできた強みがあります。また、世界的なSRAグループのネットワークを活かし、日本国内はもとより、欧米の日系グローバル企業を中心としたお客さまに高付加価値サービスを提供し、オフショアも活用したグローバルサポートの展開で売上高の拡大と利益率の向上をめざします。

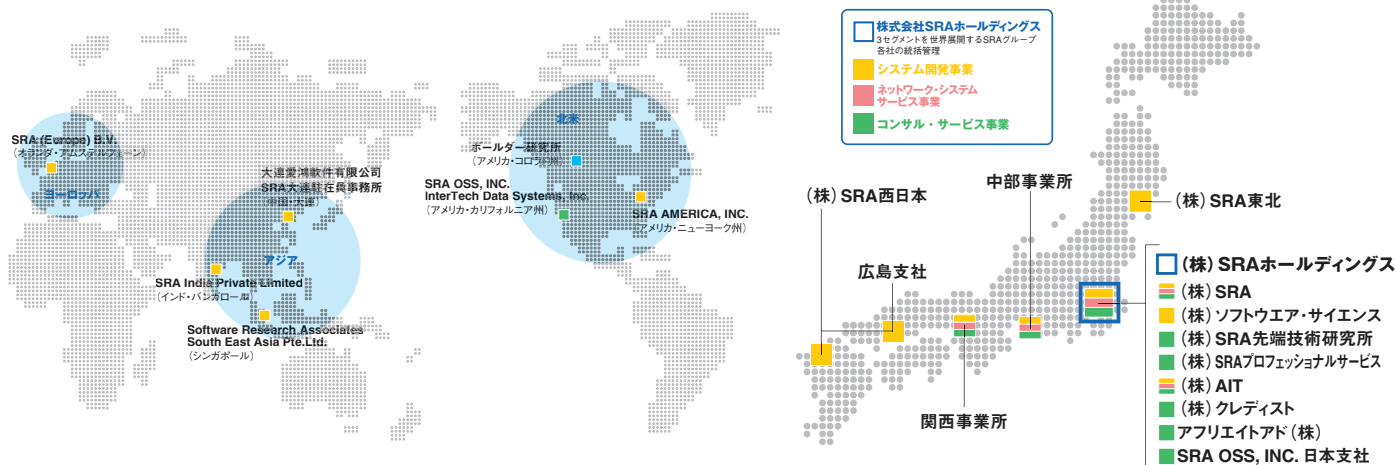
3. 大手顧客基盤

金融機関、通信業、電力、製造業等の業界を代表する大手企業を顧客とし、継続的・安定的な取引を行っていることが強みであります。また、これらの優良な顧客基盤に対し、案件マネージメントの強化と顧客セグメント別マーケティングの実践を行います。

Global Reach

世界中に広がるSRAグループ

SRAグループの国内・海外のネットワークを活用し グループシナジーのさらなる強化を図ります



「株主懇親会」開催

株主懇親会を6月26日の株主総会後に初めて開催し、株主総会ご出席のほぼ全員の株主の方にご参加いただきました。個人株主のみなさまと直接お話をさせていただくことができ、貴重なご意見を頂戴いたしました。

▶開催概要

1. SRAグループの新ロゴマークとスローガン(「変化」から「進化」へ) 紹介
2. 鹿島社長から2007年度計画について説明
3. 「株主優待制度」(6月21日発表) 説明
4. 株主のみなさまと当社役員との懇談

来年の定時株主総会の際にも株主のみなさまと直接、お話をさせていただく場(株主懇親会)を設ける予定です。みなさまのご参加をお待ち申し上げます。



お土産：お菓子

お土産：ストラップ

株主懇親会の情報は右記ホームページのIRスケジュールをご覧ください。

<http://www.sra-hd.co.jp/ir/>

「個人投資家向け会社説明会」開催

個人投資家向け会社説明会の開催は初めてでしたが、多くの個人投資家のみなさまにご出席いただき、感謝しております。ご出席のみなさまからいただきました貴重なご意見は、今後のビジネス展開の参考にさせていただきます。

▶主なご質問

Q. 顧客企業の業種と今後どの分野が伸びると予想するか？

A. 金融分野、製造業が大きな柱。最近、流通分野が伸びている。

Q. 新中期経営計画達成のための方策のひとつであるM&Aとは？

A. 新中期経営計画＝現在の成長性の伸展＋M&A(シナジー効果が出るM&A)

Q. 一番の得意分野はなにか？

A. 技術力に優位性があり、最近では「製品の組込ソフトウェア」分野。今後、ソフトウェア活用が大きく期待できる自動車分野にも展開中。

▶概要

開催日 2007年9月8日(土)
開催場所 大和コンファレンスホール(東京/丸の内)
出席者数 約350名
説明内容 (1) SRAグループ概要 (2) 業績の推移 (3) 2007年度計画&今後の取組み



会社説明会の様子

スムーズアップ
カレンダー・電卓
をプレゼント



株主情報の最新情報は右記ホームページのIRスケジュールをご覧ください。

<http://www.sra-hd.co.jp/ir/>

株式会社SRAホールディングス（連結）

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	20,763	20,010
現金及び預金	7,831	8,306
受取手形及び売掛金	7,184	7,790
有価証券	2,001	1,999
たな卸資産	2,677	846
その他	1,071	1,072
貸倒引当金	△ 2	△ 5
固定資産	4,847	4,611
有形固定資産	234	237
無形固定資産	583	600
投資その他の資産	4,029	3,774
資産合計	25,611	24,622
負債の部		
流動負債	9,881	9,106
買掛金	3,843	3,041
短期借入金	2,411	2,446
未払法人税等	876	615
未払消費税等	208	362
未払費用	673	1,169
その他	1,868	1,470
固定負債	3,696	3,882
社債	—	300
長期借入金	18	32
その他	3,678	3,549
負債合計	13,578	12,989
純資産の部		
株主資本	11,348	10,776
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	4,519	4,519
利益剰余金	6,723	6,151
自己株式	△ 894	△ 894
評価・換算差額等	640	834
其他有価証券評価差額金	585	796
為替換算調整勘定	55	37
新株予約権	29	9
少数株主持分	14	11
純資産合計	12,033	11,632
負債・純資産合計	25,611	24,622

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年4月 1 日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月 1 日から 平成18年9月30日まで)
売上高	19,786	16,673
売上原価	15,751	13,424
売上総利益	4,034	3,249
販売費及び一般管理費	2,332	2,158
営業利益	1,702	1,091
営業外収益	72	81
営業外費用	43	36
経常利益	1,731	1,136
特別利益	15	988
特別損失	0	37
税金等調整前中間純利益	1,745	2,087
法人税、住民税及び事業税	921	195
法人税等調整額	△ 97	651
少数株主利益	2	29
中間純利益	918	1,210

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年4月 1 日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月 1 日から 平成18年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	346	583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 329	2,070
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 395	△ 221
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	3
現金及び現金同等物の増減額	△ 374	2,435
現金及び現金同等物の期首残高	9,919	5,617
現金及び現金同等物の 中 間 期 末 残 高	9,545	8,053

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

(単位：百万円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等			新株 予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	其他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	1,000	4,519	6,151	△ 894	10,776	796	37	834	9	11,632
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 345	—	△ 345	—	—	—	—	△ 345
中間純利益	—	—	918	—	918	—	—	—	—	2 921
株主資本以外の項目の中間 連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 211	17	△ 193	19	△ 174
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	572	—	572	△ 211	17	△ 193	19	2 400
平成19年9月30日残高	1,000	4,519	6,723	△ 894	11,348	585	55	640	29	14 12,033

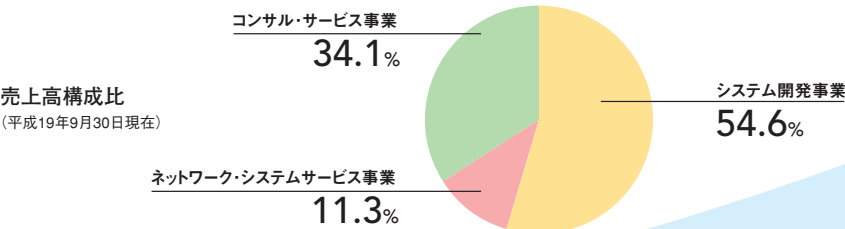
セグメント情報

事業セグメント別売上高の推移

(単位：百万円)

事業セグメント	2008年3月期	2007年3月期		当中間期の概況
	当中間期	前中間期	前期末	
システム開発事業	10,797	9,654	21,701	製造業、金融機関および流通業向けの受注が増加（前年同期比11.8％増）
ネットワーク・システムサービス事業	2,247	2,126	4,392	学校関連の受注は横ばいだったが企業向けの受注が増加（前年同期比5.7％増）
コンサル・サービス事業	6,741	4,892	10,672	機器販売が増加（前年同期比37.8％増）

(注) 営業利益は、セグメント間の内部取引を含んでおり、配賦不能な営業費用を含んでおりません。



株 式 会 社 S R A （ 個 別 ）

中間貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	16,257	16,545
現金及び預金	5,936	6,110
受取手形及び売掛金	4,229	4,703
有価証券	2,001	1,999
関係会社株式	2,573	2,625
たな卸資産	1,058	513
その他	457	593
貸倒引当金	△ 0	△ 0
固定資産	4,962	5,125
有形固定資産	150	161
無形固定資産	317	386
投資その他の資産	4,494	4,577
投資有価証券	1,502	1,763
関係会社株式	1,301	1,301
その他	1,839	1,661
貸倒引当金	△ 8	△ 8
投資損失引当金	△ 140	△ 140
資産合計	21,219	21,671
負債の部		
流動負債	5,846	6,739
買掛金	1,535	1,614
短期借入金	1,770	1,770
その他	2,540	3,355
固定負債	3,368	3,270
長期借入金	18	26
退職給付引当金	2,976	2,878
役員退職慰労引当金	374	365
負債合計	9,215	10,010
純資産の部		
株主資本	10,404	9,830
資本金	2,640	2,640
資本剰余金	2,881	2,881
利益剰余金	4,883	4,309
評価・換算差額等	1,599	1,829
その他有価証券評価差額金	1,599	1,829
純資産合計	12,004	11,660
負債・純資産合計	21,219	21,671

中間損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (平成19年4月 1 日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月 1 日から 平成18年9月30日まで)
売上高	11,655	10,469
売上原価	8,917	8,373
売上総利益	2,737	2,096
販売費及び一般管理費	1,343	1,337
営業利益	1,394	758
営業外収益	222	139
営業外費用	17	101
経常利益	1,598	796
特別利益	—	988
特別損失	0	12
税引前中間純利益	1,598	1,771
法人税、住民税及び事業税	673	45
法人税等調整額	△ 60	646
中間純利益	985	1,080

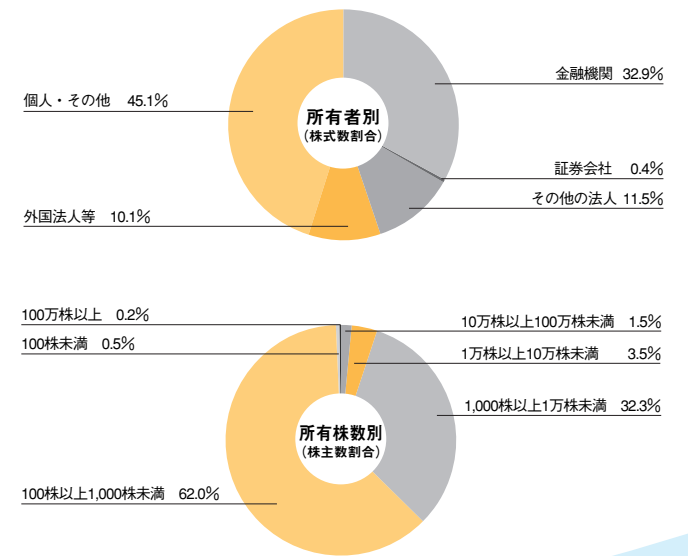
株式の状況

（平成19年9月30日現在）

- 発行可能株式総数 60,960,000株
- 発行済株式総数 15,240,000株
- 株 主 数 1,806名
- 大株主

株 主 名	持株数(千株)	出資比率(%)
丸森隆 吾	2,363	15.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,413	9.2
株式会社SRA	1,400	9.1
SRAホールディングス社員持株会	762	5.0
第一生命保険相互会社	564	3.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	561	3.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	560	3.6

●株式分布状況



会社概要

（平成19年9月30日現在）

- 商 号 株式会社 S R A ホールディングス
SRA Holdings, Inc.
- 本 店 所 在 地 東京都豊島区南池袋二丁目32番8号
- 設 立 年 月 日 平成3年1月28日
- 資 本 金 10億円
- 主要な事業内容 システム開発事業、ネットワーク・システム
サービス事業およびコンサル・サービス事
業を営む事業会社の統括管理
- 従 業 員 数 1,696名（連結）

役員

（平成19年9月30日現在）

- 代表取締役会長 丸 森 隆 吾
- 代表取締役社長 鹿 島 亨
- 常 務 取 締 役 谷 野 寛
- 常 務 取 締 役 富 田 博
- 常 勤 監 査 役 室 伏 仁
- 常 勤 監 査 役 小 川 浩
- 監 査 役 櫻 井 通 晴
- 監 査 役 竹 谷 智 行
- 会 計 監 査 人 太陽ASG監査法人